

浮島町地区・浮島地先地区

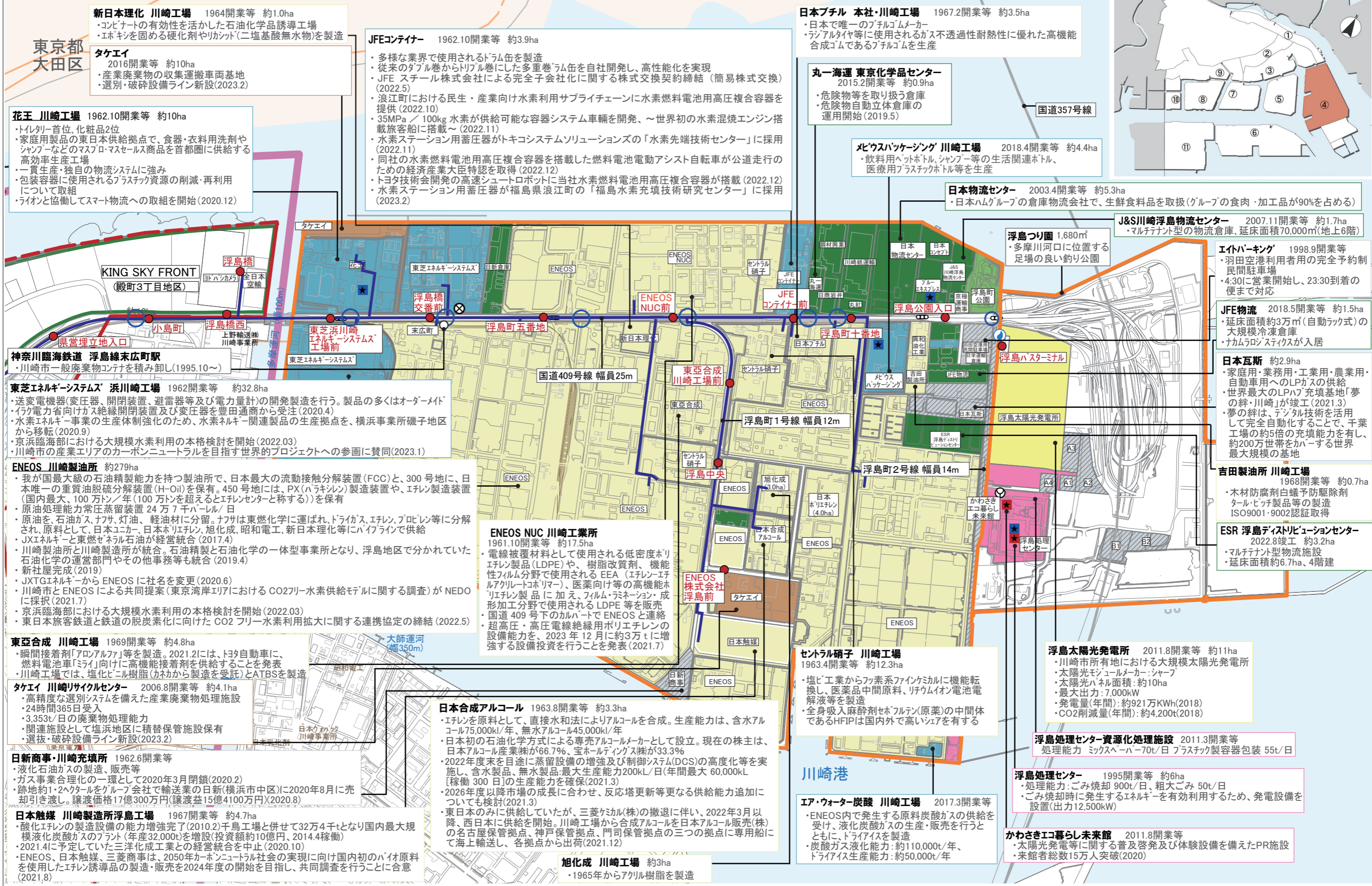
4

凡例

- 市域
- 対象地区範囲
- 国際戦略総合特別区域
- 都市再生緊急整備地域
- 特定都市再生緊急整備地域
- バス停
- 鉄道駅
- 横断歩道
- 工業用水道
- 警察署
- 消防署
- 便利施設 (コンビニ・売店等)
- 避難所
- 給水拠点
- 津波避難施設
- 帰宅困難者一時滞在施設
- 製造 (石油・石油化学)
- 製造 (石油・石油化学以外)
- リサイクル
- 公共用地
- 物流
- エネルギー
- その他
- 良好な戸建住宅地
- 公園等
- 研究開発

SCALE 1/12000

0 100 300 500m



新日本理化学 川崎工場 1964開業等 約1.0ha
 ・コンビナートの有効性を活かした石油化学誘導工場
 ・エポキシを固める硬化剤やリソット(二塩基酸無水物)を製造

タケエイ 2016開業等 約10ha
 ・産業廃棄物の収集運搬車両基地
 ・選別・破碎設備ライン新設(2023.2)

JFEコンテナ 1962.10開業等 約3.9ha
 ・多様な業界で使用されるドラム缶を製造
 ・従来のダブル巻からトリプル巻にした多重巻ドラム缶を自社開発し、高性能化を実現
 ・JFE スチール株式会社による完全子会社化に関する株式交換契約締結(簡易株式交換)(2022.5)
 ・浪江町における民生・産業向け水素利用サプライチェーンに水素燃料電池用高圧複合容器を提供(2022.10)
 ・35MPa/100kg水素が供給可能な容器システム車輛を開発、~世界初の水素混焼エンジン搭載旅客船に搭載(2022.11)
 ・水素ステーション用蓄圧器がトキコシステムソリューションズの「水素先端技術センター」に採用(2022.11)
 ・同社の水素燃料電池用高圧複合容器を搭載した燃料電池電動アシスト自転車が公道走行のための経済産業大臣特認を取得(2022.12)
 ・トヨタ技術会開発の高速シュートロボットに当社水素燃料電池用高圧複合容器が搭載(2022.12)
 ・水素ステーション用蓄圧器が福島県浪江町の「福島水素充填技術研究センター」に採用(2023.2)

日本フチル 本社・川崎工場 1967.2開業等 約3.5ha
 ・日本で唯一のフチルゴムメーカー
 ・ラジアルタイヤ等に使用されるガス不透過性耐熱性に優れた高性能合成ゴムであるフチルゴムの生産

丸一海運 東京化学センター 2015.2開業等 約0.9ha
 ・危険物等を取り扱う倉庫
 ・危険物自動立体倉庫の運用開始(2019.5)

メビウスパッキング 川崎工場 2018.4開業等 約4.4ha
 ・飲料用ペットボトル、シャンプー等の生活関連ボトル、医療用プラスチックボトル等を生産

日本物流センター 2003.4開業等 約5.3ha
 ・日本ハムグループの倉庫物流会社で、生鮮食料品を取扱(グループの食肉・加工品が90%を占める)

J&S川崎浮島物流センター 2007.11開業等 約1.7ha
 ・マルチテナント型の物流倉庫、延床面積70,000㎡(地上6階)

イトパーキング 1998.9開業等
 ・羽田空港利用者の完全予約制民間駐車場
 ・4:30に営業開始し、23:30到着の便まで対応

JFE物流 2018.5開業等 約1.5ha
 ・延床面積約3万㎡(自動ラック式)の大規模冷凍倉庫
 ・ナカムロスティクスが入居

日本瓦斯 約2.9ha
 ・家庭用・業務用・工業用・農業用自動車用へのLPガスの供給
 ・世界最大のLPハブ充填基地「夢の絆・川崎」が竣工(2021.3)
 ・夢の絆は、デジタル技術を活用して完全自動化することで、千葉工場の約5倍の充填能力を有し、約200万世帯をカバーする世界最大規模の基地

吉田製油所 川崎工場 1968開業等 約0.7ha
 ・木材防腐剤白蟻予防防除剤
 ・タル・ビッチ製品等の製造
 ISO9001・9002認証取得

ESR 浮島デストリビューションセンター 2022.8竣工 約3.2ha
 ・マルチテナント型物流施設
 ・延床面積約6.7ha、4階建

花王 川崎工場 1962.10開業等 約10ha
 ・トイレットペーパー、化粧品2位
 ・家庭用製品の東日本供給拠点で、食器・衣料用洗剤やシャンプーなどのマスプロ・マスセラー商品を生産する高効率生産工場
 ・一貫生産・独自の物流システムに強み
 ・包装容器に使用されるプラスチック資源の削減・再利用について取組
 ・ライオンと協働してスマート物流への取組を開始(2020.12)

東芝エネルギーシステムズ 浜川崎工場 1962開業等 約32.8ha
 ・送変電機器(変圧器、開閉装置、避雷器等)及び電力計の開発製造を行う。製品の多くはオーダーメイド
 ・伊予電力向け高圧絶縁開閉装置及び変圧器を豊田通商から受注(2020.4)
 ・水素エネルギー事業の生産体制強化のため、水素エネルギー関連製品の生産拠点を、横浜事業所磯子地区から移転(2020.9)
 ・京浜臨海部における大規模水素利用の本格検討を開始(2022.03)
 ・川崎市の産業エリアのカーボンニュートラルを目指す世界的プロジェクトへの参加に賛同(2023.1)

ENEOS 川崎製油所 約279ha
 ・我が国最大級の石油精製能力を持つ製油所で、日本最大の流動接触分解装置(FCC)と、300号地に、日本唯一の重質油脱硫分解装置(H-Oil)を保有。450号地には、PX(パラキシレン)製造装置や、エチレン製造装置(国内最大、100万トン/年(100万トンを超えるとエチレンセンターと称する))を保有
 ・原油処理能力常圧蒸留装置 24万7千バレル/日
 ・原油を、石油ガス、ナフサ、灯油、軽油材に分留。ナフサは東燃化学に運ばれ、ドライガス、エチレン、プロピレン等に分解され、原料として、日本ユネカ、日本ホリエレン、旭化成、昭和電工、新日本理化学等にパイプラインで供給
 ・JXエネルギーと東燃セネラル石油が経営統合(2017.4)
 ・川崎製油所と川崎製造所が統合。石油精製と石油化学の一体型事業所となり、浮島地区で分かれていた石油化学の運営部門やその他事務等も統合(2019.4)
 ・新社屋完成(2019)
 ・JXTGエネルギーからENEOSに社名を変更(2020.6)
 ・川崎市とENEOSによる共同提案(東京湾岸エリアにおけるCO2フリー水素供給モデルに関する調査)がNEDOに採択(2021.7)
 ・京浜臨海部における大規模水素利用の本格検討を開始(2022.03)
 ・東日本旅客鉄道と鉄道の脱炭素化に向けたCO2フリー水素利用拡大に関する連携協定の締結(2022.5)

ENEOS NUC 川崎工業所 1961.10開業等 約17.5ha
 ・電線被覆材料として使用される低密度ポリエチレン製品(LDPE)や、樹脂改質剤、機能性フィルム分野で使用される EEA(エチレン-エチルアクリレートコポリマー)、医薬向け等の高機能ポリエチレン製品に加え、フィルム・ラミネーション・成形加工分野で使用される LDPE等を販売
 ・国道409号下のカルバートでENEOSと連絡
 ・超高压・高圧電線絶縁用ポリエチレンの設備能力を、2023年12月に約3万tに増強する設備投資を行うことを発表(2021.7)

東亜合成 川崎工場 1969開業等 約4.8ha
 ・瞬間接着剤「アロンアルファ」等を製造。2021.2には、トヨタ自動車に、燃料電池車「ミライ」向けに高機能接着剤を供給することを発表
 ・川崎工場では、塩化ビニル樹脂(カネカから製造を受託)とATBSを製造

タケエイ 川崎リサイクルセンター 2006.8開業等 約4.1ha
 ・高精度な選別システムを備えた産業廃棄物処理施設
 ・24時間365日受入
 ・3.353t/日の廃棄物処理能力
 ・関連施設として塩浜地区に積替保管施設保有
 ・選別・破碎設備ライン新設(2023.2)

日新商事 川崎充填所 1962.6開業等
 ・液化石油ガスの製造、販売等
 ・ガス事業合理化の一環として2020年3月閉鎖(2020.2)
 ・跡地約1.2ヘクタールをグループ会社で輸送業の日新(横浜市中区)に2020年8月に売却引き渡し。譲渡価格17億3000万円(譲渡益15億4100万円)(2020.8)

日本触媒 川崎製造所浮島工場 1967開業等 約4.7ha
 ・酸化エチレンの製造設備の能力増強完了(2010.2)千鳥工場と併せて32万4千tとなり国内最大規模
 ・酸化エチレンの製造設備の能力増強完了(2010.2)千鳥工場と併せて32万4千tとなり国内最大規模
 ・模倣化炭酸ガスのプラント(年産32,000t)を増設(投資額約110億円、2014.4稼働)
 ・2021.4に予定していた三洋化成工業との経営統合を中止(2020.10)
 ・ENEOS、日本触媒、三菱商事は、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向け国内初のバイオ原料を使用したエチレン誘導品の製造・販売を2024年度の開始を目指し、共同調査を行うことに合意(2021.8)

東亜合成 川崎工場前
 セントラル硝子
 ENEOS
 浮島町1号線 幅員12m

ENEOS 株式会社 浮島前
 タケエイ
 日本触媒
 浮島中央
 旭化成 約3.0ha
 日本合成 アルコール
 ENEOS
 浮島町2号線 幅員14m

旭化成 川崎工場 約3ha
 ・1965年からアクリル樹脂を製造

日本合成アルコール 1963.8開業等 約3.3ha
 ・エチレンを原料として、直接水合法によりアルコールを合成。生産能力は、含水アルコール75,000kl/年、無水アルコール45,000kl/年
 ・日本初の石油化学方式による専売アルコールメーカーとして設立。現在の株主は、日本アルコール産業(株)が66.7%、宝ホールディングス(株)が33.3%
 ・2022年度末を目途に蒸留設備の増強及び制御システム(DCS)の高度化等を実施し、含水製品、無水製品最大生産能力200kl/日(年間最大 60,000kl [稼働 300日])の生産能力を確保(2021.3)
 ・2026年度以降市場の成長に合わせ、反応塔更新等更なる供給能力追加についても検討(2021.3)
 ・東日本にのみ供給していたが、三菱ケミカル(株)の撤退に伴い、2022年3月以降、西日本に供給を開始。川崎工場から合成アルコールを日本アルコール販売(株)の名古屋保管拠点、神戸保管拠点、門司保管拠点の三つの拠点に専用船にて海上輸送し、各拠点から出荷(2021.12)

浮島つり園 1,680㎡
 ・多摩川河口に位置する足場の良い釣り公園

浮島太陽光発電所 2011.8開業等 約11ha
 ・川崎市所有地における大規模太陽光発電所
 ・太陽光モジュールメーカー: シャープ
 ・太陽光パネル面積: 約10ha
 ・最大出力: 7,000kW
 ・発電量(年間): 約921万KWh(2018)
 ・CO2削減量(年間): 約4,200t(2018)

浮島処理センター 1995開業等 約6ha
 ・処理能力: ごみ焼却 900t/日、粗大ごみ 50t/日
 ・ごみ焼却時に発生するエネルギーを有効利用するため、発電設備を設置(出力12,500kW)

かわさきエコ暮らし未来館 2011.8開業等
 ・太陽光発電等に関する普及啓発及び体験設備を備えたPR施設
 ・来館者総数15万人突破(2020)

浮島処理センター-資源化処理施設 2011.3開業等
 処理能力 ミックスペーパー70t/日 プラスチック製容器包装 55t/日

エア・ウォーター炭酸 川崎工場 2017.3開業等
 ・ENEOS内で発生する原料炭酸ガスの供給を受け、液化炭酸ガスの生産・販売を行うとともに、ドライアイスも製造
 ・炭酸ガス液化能力: 約110,000t/年、ドライアイス生産能力: 約50,000t/年